

## 出題傾向

解答時間は60分。全て五者択一式のマークシート形式である。大問は三つある。大問①、②は読解問題であるが、大問③では、いわゆる知識問題が出題されている。大問①、②、③問わず、語彙力があれば解くことができる問題が多く出題されているので、確実に得点できるようにしておきたい。また、大問③ではいわゆる知識問題が出題されているとはいえ、大問①、②でも漢字問題が出題されているので、やはり語彙力が不可欠である。そして、読解問題の他に空欄補充問題も出題されているが、こうした問題も、該当箇所の前後を読んで適切か否かを判断しなければならないという意味で、語彙力が必要である。

大問①は、津島佑子『快樂の本棚』からの出題で、約1900字である。大問②では、傍線部の説明や理由に関する読解問題の他に、漢字に関する問題や指示語に関する問題、空欄補充問題や等が出題されている。なかには擬人法に関する問題など、文法問題といわれる問題も出題されていた。

大問③は、河合隼雄『大人になることのむずかしさ』からの出題で、約2000字である。大問③でも漢字問題が出題されているが、大問①とは異なり、それ以外は傍線部や本文の説明、理由を問う問題が多い。

大問③は、既に述べたように、いわゆる知識問題が出題されている。具体的には誤字を含む文を選ぶ問題、誤った読み方を選ぶ問題、空欄に入る言葉に関する問題、言葉の関係に関する問題、言葉の使い方に関する問題、言葉の説明に関する問題、敬語の使い方に関する問題等が出題されている。

## 学習アドバイス

年度によって出題傾向が少し変わる可能性はあるが、出題傾向で何度も述べたように、語彙力が必要な問題が多く出題されている。よって、一日に10分でいいので漢字問題を解くようにしたい。小さな積み重ねを毎日続けて、語彙力を確実に増やしていきたい。同時に、普段から意味がわからない言葉を見ると調べて、覚えるようにしたい。そうして語彙力をつけていくことが、合格への近道である。

次に、読解問題の対策について述べる。比較的読みやすい文章から出題されているとはいえ、思い込みで選択肢を選ばないようにしたい。現代文で合格点を取るには、本文を理解することも重要だが、設問や傍線部の視点で本文を理解し直すことも重要である。よって、設問や傍線部の言いたいことは本文のどの辺を使えば理解できるのか、といった視点を忘れないようにしたい。本文に書いてある表現であっても、設問や傍線部が言いたいことだとは限らないので、注意が必要である。こうした視点で、過去問を解いてもらいたい。もちろん、標準レベルの問題集を買って、多くの文章や問題に触れることも忘れないでもらいたい。